

■小川一真 写真師として啓蒙的役割をし、製版・印刷技術の開拓者として、写真界の発展に大きく貢献するも、最後は苦難。

おがわいっしん

桜田門外変・1860＝ 武蔵国忍藩(行田市)で、下級藩士原田庄左衛門の次男に生まれる。母はみよ。幼名朝之助。兄清太郎はのち博文堂書店を創業し、一時代を築く。

8月18日政変 1863＝ 3歳： 同じ忍藩士小川石太郎の養子となり、一真と改名。

薩長同盟・・・1866＝ 6歳： この年、藩主が幼年者対象に{培根堂}を開校し、洋学館も併設、

明治維新・・・1868＝ 8歳： {培根堂}に入学、
版籍奉還・・・1869＝ 9歳： この間、洋学館で英語に触れた可能性。

学問のすすめ1872＝12歳： この年、学制が敷かれ、{培根堂}が廃止されると、養父母に進学を懇願し、
明治6年政変 1873＝13歳： 上京、向学心と成績評価され、有馬学校に入学。_学費が足りなく、英国人教師カノン宅の給仕となって住込んだことから、写真術を教えられて興味を抱くようになり、
初の民間工場1875＝15歳： 卒業。土木工学に進もうと工部大学校受験中に祖母危篤の報で帰郷、_学費を得ようと、熊谷の吉原秀雄写場の見習いとなり、一連の湿版法写真術を会得し、
西南戦争・・・1877＝17歳： 官営の製糸工場のある群馬県富岡で、女工らが郷里に写真送るに違いないと、_写場を開業。
大久保暗殺・1878＝18歳： 目論見通り順調に発展、高価な暗箱まで入手し、風景写真に挑戦するほどになるが、

・・・1880＝20歳：
明治14年政変1881＝21歳： 第二回内国博に、富岡で制作した「妙義山中ノ山獄景」を出品するも、入賞できず、闘争心が沸き起こり、写場を閉鎖、学資金を手し、再び上京し、築地のバラ学校入学、
新体詩抄・・・1882＝22歳： 卒業。横浜警察署英語通訳で資金貯めると、入港したアメリカ艦隊司令官に押掛け面会、写真への熱意認められ、その乗員となって、家出同然に渡米。アメリカから贈った乾板が下岡蓮杖から江崎礼二に渡る。
岩倉具視没・1883＝23歳： 司令官のアドバイスで、ボストンの写真師について写真術を研究、資金難に陥るも、旧藩主に助けられ、
秩父事件・・・1884＝24歳： 帰国。結婚。初仕事の銀座の薩摩屋の写真広告塔が話題。国産化めざし横浜で乾板製造に着手するが、
内閣発足・・・1885＝25歳： 長男が誕生(長女・次男は夭折)。失敗に終わる。旧藩主の援助で、東京飯田町に_写場(玉潤館)を開設する一方、陸軍参謀本部陸地測量部の教官に囑託される。

帝国大学始・1886＝26歳： 日光東照宮の内部撮影を委嘱され、を工夫。_不変色写真の開発に成功し、
国民之友始・1887＝27歳： *東京府工芸品共進会に出品して褒賞得たことから、東宮御所御用掛を拝命。来日したアメリカのトッドらの日蝕観測団に参加し新法で撮影、高く評価され、イギリスのバルトンと知合って意気投合。
初の対等条約1888＝28歳： 写真版印刷業を開業し、高崎産の娘の遺影の大量注文に応じ、コロタイプ写真製版に成功。宮内省の美術品取調べに随行し近畿地方社寺の古美術品を銀紙の反射光利用して撮影。
帝国憲法発布1889＝29歳： *岡倉天心らが創刊した美術写真雑誌(国華)の写真を担当、京橋にコロタイプ製版工場を創設して対応し、日本初の写真図版美術誌となっただけでなく、バルトンから絶賛される。拡充すべく、新橋日吉町に小川写真印刷工場を開設する一方、業界啓発すべく専門雑誌(写真新報)の編集を請負い、榎本武?会長に迎えた日本写真会の誕生にも尽力。皇太子の写真撮影する榮譽。

帝国議会始・1890＝30歳： 妻が死去。第三回内国博審査官に任命され、出品したバルトン指導の白金印画「富岳の景」が一等有功賞、オパールガラス「鎌倉大仏」が一等妙技賞となるが、審査官の立場に矛盾し以後業界で孤立。

足尾鉍毒始・1891＝31歳： 再婚。2年前に再挑戦始めた乾板国産化がまたも挫折するなか、バルトン設計の浅草凌雲閣に螺旋階段飾る「百美人写真」注文受けて撮影、東京土産にも好評。発生した濃尾大地震に、バルトンらに従い惨状を撮影、バルトンとミルトン共著の「日本の大地震」となる。写真によるツーリズムの先駆「東海道」「函根」。
大本教・・・1892＝32歳： *老夫婦がバルトンに激賞され、代表作となる。評議員としてシカゴ万博に出席し、作品は名誉金牌。写真銅版印刷機械を購入して帰国、報告論文を(写真新報)に連載し、自ら撮影した博覧会風景を、凌雲閣で幻燈・ジオラマ展覧。バルトンらと水底写真撮影実験を試み失敗。ファーゲル(光線化学)訳。
郡司千島探検1893＝33歳： 新らしい機械による新規事業に名乗り上げた直後、日清戦争となり、陸海軍から記録写真撮影を委嘱され、写真班を編成して戦場に派遣、自らは製版・印刷に尽力。「戦争写真帖(海戦の部)」を刊行するも、

日清戦争始・1894＝34歳： (太陽)創刊号巻頭に内閣閣僚の写真。「日清戦争写真石版」発行。_火災で工場が全焼。意気消沈するなか、{自由新聞}写真師人気投票発表で2位。王立写真協会名誉会員に推薦される。
日清戦争終・1895＝35歳： 北海道での日蝕調査団に参加し撮影。_かねて収集してきた欧米写真厳選し「標本写真帖」刊行。大日本写真協会特別会員となったのを機に(写真新報)から手を引く。(写真月報)に日本初の彩色面複製掲載。

白馬会・・・1896＝36歳： 北海道での日蝕調査団に参加し撮影。_かねて収集してきた欧米写真厳選し「標本写真帖」刊行。大日本写真協会特別会員となったのを機に(写真新報)から手を引く。(写真月報)に日本初の彩色面複製掲載。
八幡製鉄始・1897＝37歳： 生産工程など一新すべく(玉潤館小川写真館){写真製版所}集約、通行人の目引く建物となる。
子規句歌革新1898＝38歳： 「明治30年秋季大機動演習写真帖」「第9回赤十字総会写真帖」。この頃、_写真師として最高の多額納税者。
ビノ国産化・1900＝40歳： 帝大の依頼で北清事変後の紫禁城などを撮影、「清国北京皇城写真帖」に掲載され、
田中正造直訴1901＝41歳： 原版・印画352枚セットを帝大に寄贈して賞賛されるなど、_写真界第一人者に至る。
教科書疑獄・1902＝42歳： 再婚した妻も死去。陸地測量部「明治34年秋季陸軍大演習写真帖」製版。
日比谷公園・1903＝43歳： 第5回内国博では鉄道作業局依頼で沿線風景など撮影陳列の一方、百美人写真展覧会場が設置される。

日露戦争始・1904＝44歳： *戦地写真の製版・印刷・発行業務を囑託され、まず大本営写真班撮影「日露戦没写真帖第1～3」出版。
日露戦争終・1905＝45歳： 板垣退助三女婉子と再々婚。*ロシア万博に「引伸彩色写真」出品し金牌。「日露戦役彩色大写真展覧会」に3×6尺の戦場大画面。青山練兵場の凱旋記念大観兵式御園兵中の天皇を謹写。

満鉄発足・・・1906＝46歳： 「清国北京皇城写真帖」「靖国神社臨時大祭写真帖」刊行。浅沼らに懇請され、_三度目の乾板国産化に挑戦、
韓国反日暴動1907＝47歳： 「京都綿子株式会社創業10周年記念写真帖」撮影し発行。_日本乾板株式会社を設立し、専務となるが、
アヲヲ創刊・1908＝48歳： 陸地測量部「明治40年秋季陸軍大演習写真帖」。
伊藤博文暗殺1909＝49歳： イタリアから三等勲章。「故伊藤公爵国葬写真帖」撮影し発行。
韓国併合・・・1910＝50歳： 陸軍測量部「明治42年秋季陸軍大演習写真帖」統監府「日韓併合記念大日本帝国朝鮮写真帖」「日本風景風俗写真帖」。
大逆事件判決1911＝51歳： 「東京風景」。*資金繰りに行詰まり、本邸別邸を引き払い日吉町に移転。
明治天皇没・1912＝52歳： 民間の(御大葬儀籌備会)組織し代表。撮影後、「御大葬儀写真帖」出版。
大正政変・・・1913＝53歳： のち千円札に使用される夏目漱石の肖像撮影。スエーデンから第三等勲章、フランスからビュブリック勲章。

第一次大戦始1914＝54歳： 東京大正博覧会に、古書画を撮影しコロタイプ印刷で一見真贋区別できない精巧な作品に仕上げ、傑作となる。黒田清輝らとともに、_宮内省御用掛を拝命。
21ヶ条要求・1915＝55歳： 御真影を奉写。
民本主義・・・1916＝56歳： 欧州から帰国した柴一雄を(小川写真化学研究所)に迎え、
本格政党内閣1918＝58歳： 小川乾板が完成するが、大戦終結で輸入品に圧倒されたこともあり、_'乾板研究に専念すべく写真業廃業'宣言し、(小川写真化学研究所)とも平塚に撤退、

原敬首相暗殺1921＝61歳：
関東大震災・1923＝63歳： 関東大震災で自宅と工場が被災。
治安維持法・1925＝65歳： ニエプス氏写真百年祭で講演。
円本時代始・1926＝66歳： 妻婉子が死去。体力の衰えるなか研究を続け、大阪朝日の村山社長らにより小川一真表彰会が設立され、
金融恐慌・・・1927＝67歳： 「アサヒカメラ」に「史料小川一真翁経歴談」が連載され、ビナス印画紙を製造販売するが、
共産党事件・1928＝68歳： (小川写真化学研究所)を日本写真工業に売却して、
世界恐慌・・・1929＝69歳： 没した。

大井莊次「北武蔵人物散歩」、平凡社百科事典、